

Choosing Wisely 内科医の賢明な選択とは

わが国の医療において、最適な診断と治療の選択は、患者中心の医療を実装するなかで重要な課題となっている。この複雑な課題を解決するための取り組みの一環として、「Choosing Wisely(賢明な選択)」という国際的なキャンペーンが注目を集めている。このキャンペーンは、医療者と患者がともに対話を通じて、科学的なエビデンスに基づき、患者にとって真に必要であり、かつ副作用の少ない医療の選択を目指すものである。

Choosing Wisely は、米国内科学会(American College of Physicians:ACP)、米国内科専門医機構(American Board of Internal Medicine:ABIM)、欧州内科連合(European Federation of Internal Medicine:EFIM)などが主導して Choosing Wisely の提言が推進されている。これらの学術団体は、医療の質の向上ならびにコストを含む不要な医療の削減を目的としており、多くの国々でこの取り組みが広がっている。わが国においても、「診療ガイドラインへの「Choosing Wisely」の導入に向けた研究」と題する調査・研究が実施され、国内の医療現場においてもその意義が高まっているなかにある。

Choosing Wisely キャンペーンは、医療の過剰使用を防ぐとともに、必要最小限かつ効果的な医療の提供を目指している。この取り組みは、特に内科医にとって重要な意味をもち、患者のQOLの向上に寄与することが期待されている。医療資源の有効活用、医療コストの削減、そして何よりも患者の利益を最優先に考える医療の実践につながる。また、患者との対話のなかで「賢明な選択」をすることも着目すべきことである。

本特集では、内科領域における Choosing Wisely の重要なトピックに焦点を当てている。これには、不必要な検査や治療を避け、患者にとって最適な医療選択を促進するための具体的な提言や、実際の臨床現場での事例研究が含まれる。これらの情報を通じて、医師が患者との対話のなかで賢明な選択を行い、よりよい医療提供に貢献することを目指している。本特集を通して、内科医やその他の医療従事者が Choosing Wisely の概念を深く理解し、日々の診療において患者中心の医療を提供するための一助となることを願っています。

千葉大学大学院医学研究院地域医療教育学
鋪野紀好